

下商物語

本校の扁額について

教諭 林 俊行

本校には、創立百二十八年もの輝く歴史と伝統がありますが、校内各所にもその証の一つとして素晴らしい歴史上の功績を残された方々による「扁額」があることを皆さんはご存知でしょうか。今回は、本校の室の一つでもある扁額について紹介したいと思います。まず、校内のどの場所にもどのようなものがあるのかまとめてみます。

管理棟
校長室「博施於民而能濟衆」 洪澤榮一（明治時代の経済界の第一人者）
校長室「不如人和」 齊藤軍八郎（本校第八代の名物校長、校長職在任約二十年）
進路指導室「以友輔仁」 広田弘毅（元外相・首相）
作法室「和敬精修」 密門有範

（高野山菅長大僧）
生徒棟
書道室「敬以直内」 平沼麒一郎（元貴族院議員・枢密院議長・首相）
図書館一階閲覧室「萬古休典」 藤澤南岳（儒教学者）
※大正十一年三月十四日の本校名池山校舎の火災で幸運にもこれだけは運びだされた。よく見ると火の粉の痕があります。おそらく焼け落ちる校舎の中に誰かが決死の思いで取り出したものだと推察されます。
二階郷土資料室「脩徳立義」 徳川家達（元貴族院議長・日本赤十字協会会長）
なお、「一階ロビー」には「正志」 副島種臣（我が国を代表する書家・政治家）という大きな扁額がありますが、これは昭和十年五月十

九日に開催された創立五十周年式典時に齊藤軍八郎元校長が念願の講堂建築に際して、個人宅に飾ってあったもの（元来は糸幅仕立ての巻物を縦書きにそれぞれ分けて額とした）差し詰め北海道大学では「少年よ 大志を抱け（クラーク博士）」ですが、本校では、「下商生よ 正志を抱け」といったことになるといえます。
いかがでしょうか。意外と目にする所に素晴らしいものが多数あることが分かってもらえたと思います。中には、相当重要な文化財に相当するものもあるのではないのでしょうか。幸いなことに、これも比較的保存状態も良いものが多いようです。

ただし、非常に残念なことに本校の歴史の中で火災や劣化によって失ったものも多数あるようです。記録によれば、「進智徳淨化欲望」高橋是清（元内閣総理大臣・日銀下関支店長）、「遠才成徳」山鼻有朋（参謀総長・枢密院議長）、「通商天下公道也」伊藤博文（初代首相）、「達人大観」洪澤榮一、「静修洞」東久世道禮（伯爵・枢密院副議長）などがあり

り大いに悔やまれます。さすがに歴史のある学校だけに実に様々な貴重なものがあることが改めてわかってもらえたと思えますが、生徒のみならず卒業までに一度は眺めておいてみるいかがでしょうか。
ところで、それぞれの扁額の意味や筆者の詳しいことについては、紙面の関係でもとすべては紹介できませんが毎年発行している本校の同窓会誌の第六十二号（平成十九年度）第六十三号（平成二十年）に特別企画として室田浩然元本校教諭（下商百年史の編集の中心者）による記事が大いに参考になりますので一読を薦めたいと思います。この同窓会誌は、本校図書館に出向けば閲覧は可能です。いずれにしても、先人の方々の本校に対する熱い思いが伝わってくる大作が多いということも、この機会に知っておいて下さい。

